

長井線応援荒砥高生が活動



運転士不足で運行本数を減業を行い、地域交通の現状を
らしているフラワー長井線を学びながら、地元の鉄道と地
応援しようと、荒砥高（白鷹 域をつなぐアイデアを練っ
町、石田充校長）の生徒が、た。
旅行商品の企画や関連グッズ 企画やプロモーションを学
の開発に取り組んでいる。14 ぶ選択授業「商品開発と流通」
日には運行する山形鉄道（長 の一環で、3年生23人が参加。
井市）の社員から話を聞く授 全校生の3割超が通学に利用

地域交通の現状学び 旅行商品を企画へ

している長井線を題材に、観
光資源としての活用の可能性
を探っている。

この日は、同社総務部の清
野涼子さんが講師を務め、乗
客数の推移やこれまでのグッ
ズ開発の成功例、失敗談を紹
介。「利用者の視点に立つこ
とが大切で、乗ってみたくい
思わせる体験をどう作るかが
鍵だ」と助言した。

授業の成果発表として、10
月には同町の荒砥駅を起点に
町内の観光地を巡るまち歩き
イベントを開催する。馬下
優弥さん(17)は「観光客が沿
線風景を楽しみに乗っている
と知り、ツアー作りの参考に
なった」と話し、岩崎琴音さ
ん(17)は「不便に感じており、
活動を通じて少しでも改善で
きればうれしい」と語った。

清野さんは「高校生ができ
ることを考えてくれるのはあ
りがたい。若い力で長井線や
沿線の新たな魅力を引き出し
てほしい」と期待を寄せた。

(野田達也)

フラワー長井線の旅行商品開発に向け
現状などを学んだ授業

〓 白鷹町・荒砥高